

＜ 改善報告書検討結果（西南学院大学）＞

〔1〕 概評

2010（平成 22）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 11 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育内容・方法については、全学部および神学研究科と国際文化研究科において、シラバスに記載内容があいまいなものがあつたことに関し、おおむね記述の精粗は改善しているものの、依然として一部の科目では成績評価基準において点数配分が記載されていないため、引き続き改善に向けた努力が望まれる。また、一部の研究科において学位授与方針の明示が十分でなかったことに関し、『大学院学生便覧』などに掲載したものの、文学研究科フランス文学専攻および国際文化研究科博士後期課程において、学位授与方針では修得することが求められる知識・能力などの学習成果が明確になっていないため、さらなる検討が望まれる。

学生の受け入れについては、神学部神学科における過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均に関し、3 年次編入を考慮した定員管理を行っているものの、依然として 0.86 と低いので、改善に向けた取り組みが望まれる。また、人間科学部社会福祉学科における編入学定員に対する編入学生数比率が 0.40 と低いので、改善が望まれる。さらに、大学院の収容定員に対する在籍学生数比率に関し、入学者数の確保と定員管理の取り組みについては評価できるが、法学研究科で 0.20、経済学研究科博士前期課程で 0.36 と依然として低いので、引き続き改善が望まれる。

教員組織については、専任教員 1 人あたりの学生数が多い学科があつたことに関し、人間科学部社会福祉学科で 42.1 人と依然として高いので、さらなる改善が望まれる。

〔2〕 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上